



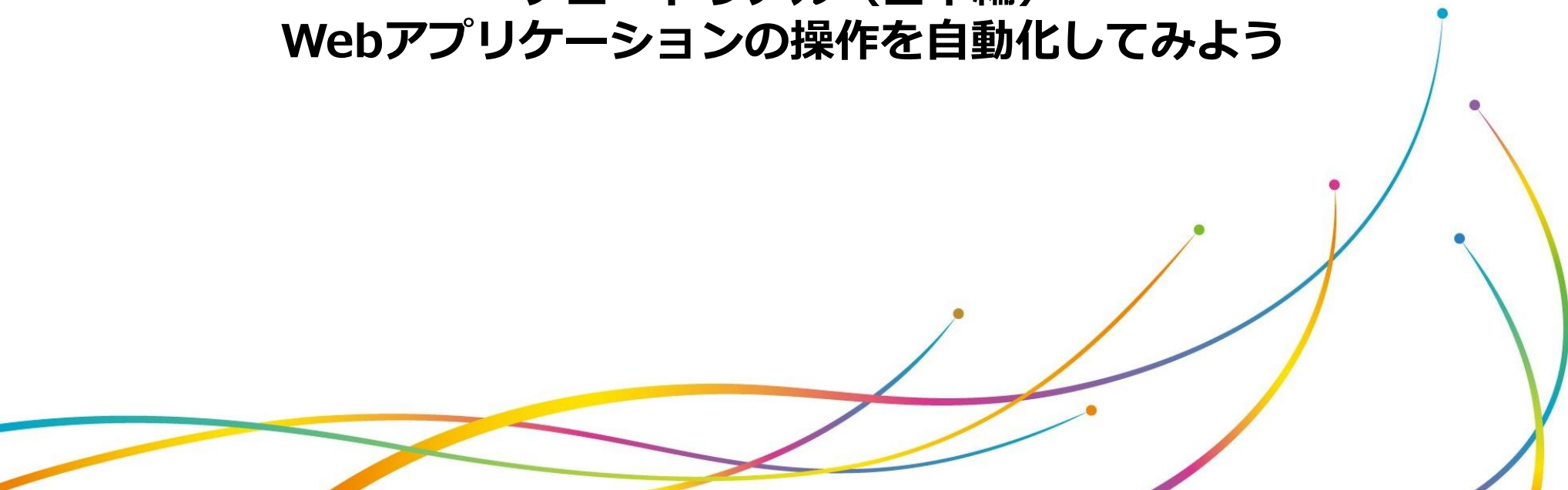
ミノロボ

RPA

MinoRobo®

Robotic Process Automation

～ チュートリアル（基本編）～
Webアプリケーションの操作を自動化してみよう



目次

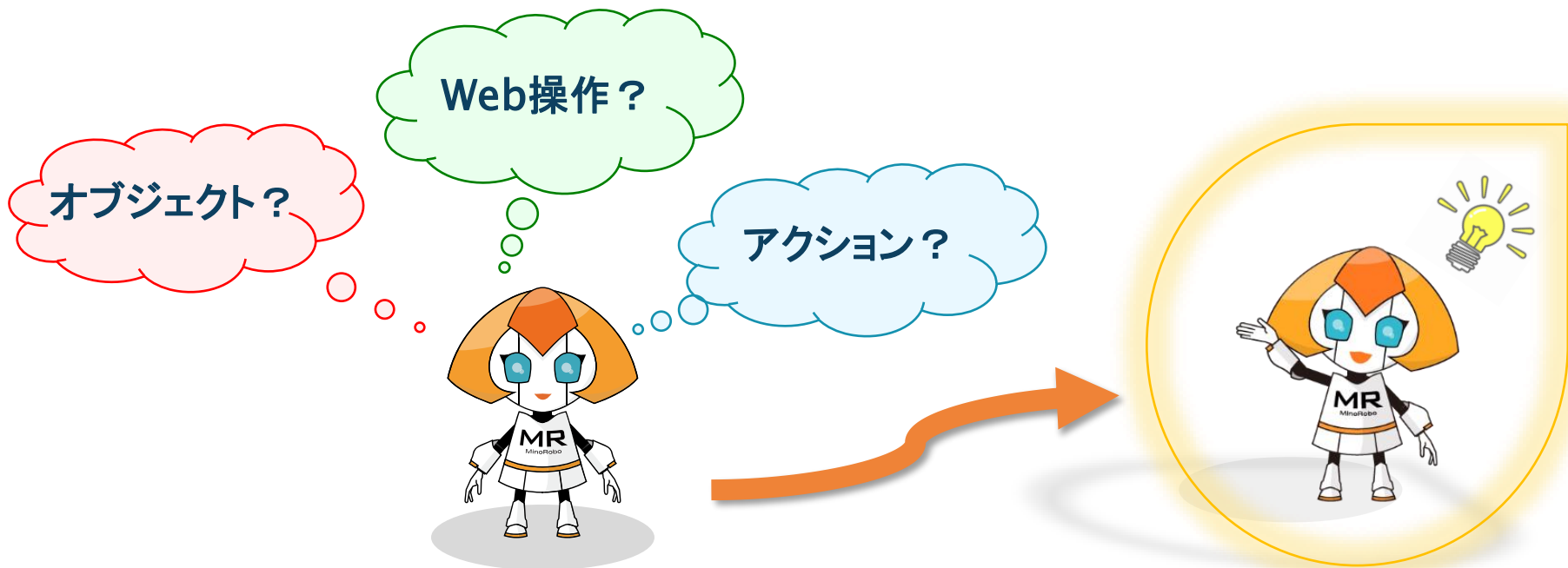
本チュートリアルの目的	… P. 3
1. 事前準備	… P. 4
2. Webアプリケーション操作の基本を理解しよう	… P. 8
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう	
・Webページを表示する	… P. 14
・Webページに値を入力する	… P. 16
・Webページのリストを選択する	… P. 19
・Webページのリンクをクリックする	… P. 23
・Webページの値を取得する	… P. 26



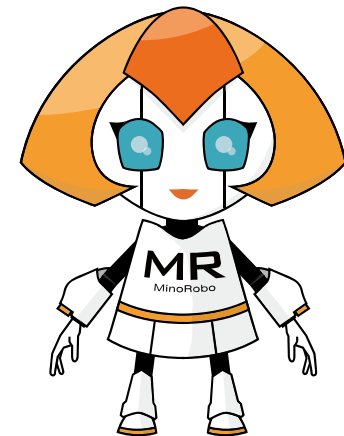
RPA **MinoRobo®**

◎ 本チュートリアルの目的

本チュートリアルでは、「オブジェクト認識」を活用したWebアプリケーション自動化の基本操作を体験します。本チュートリアルを終えることで、Webアプリケーション操作の基本的な考え方を理解し、今後のシナリオ作成が円滑に進められるようになることを目的としています。



1. 事前準備

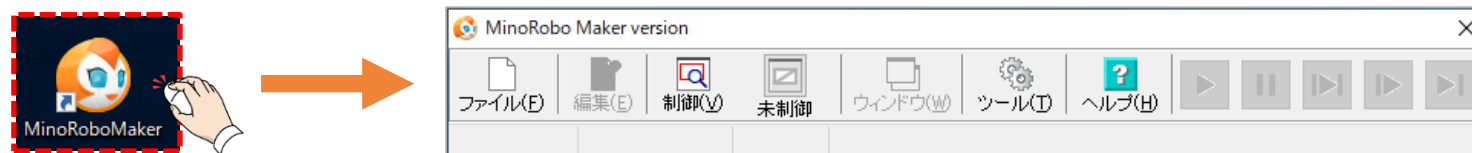


1. 事前準備

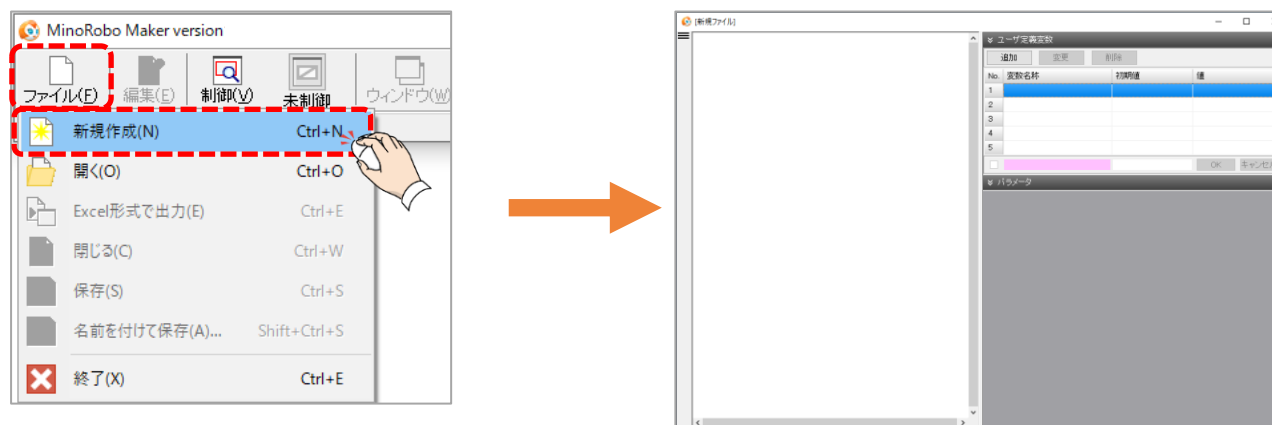
◎ 本チュートリアルを開始する前の事前準備

はじめに、本チュートリアルではChromeブラウザを対象とした操作を記載していますので、「Edge」や「IE」を操作対象とする場合は読み換えてご利用ください。

(1) MinoRobo Makerを起動しておきます。



(2) シナリオ作成画面を表示しておきます。



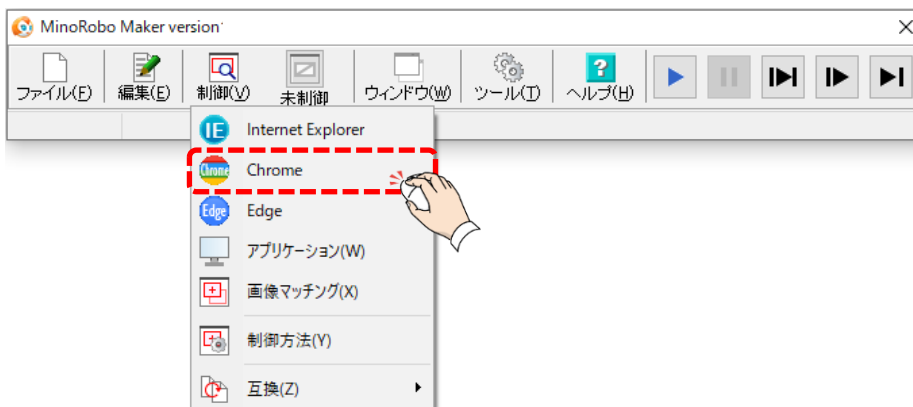
1. 事前準備

◎ 本チュートリアルを開始する前の事前準備

(3) Chromeブラウザを手動で起動している場合は、(4)の操作開始前にChromeブラウザを閉じておいてください。(Chromeブラウザを起動したまま(4)の操作を行うとエラーが発生します)



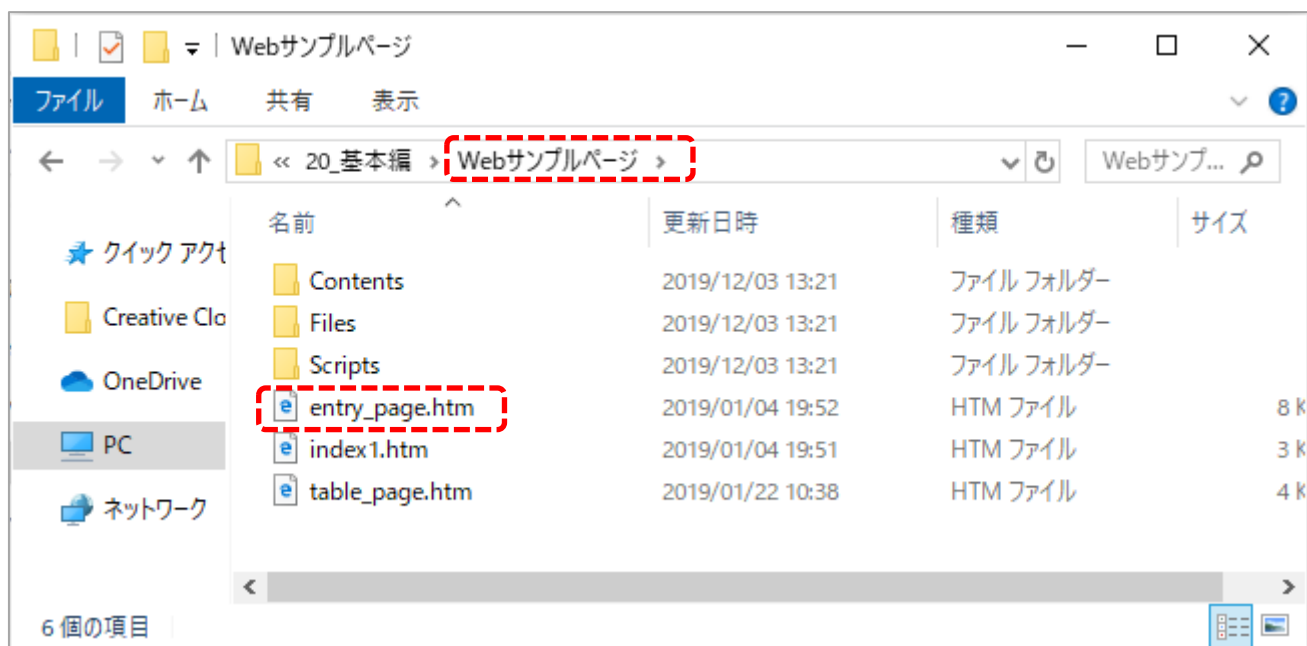
(4) (1)～(3)を確認後、メイン画面の「制御(V)」→「Chrome」を選択してChromeブラウザをMinoRobo経由で起動してください。



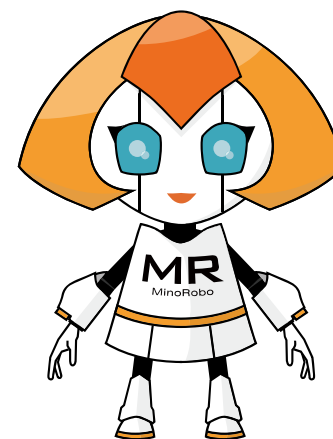
1. 事前準備

◎ 本チュートリアルを開始する前の事前準備

(5) 本チュートリアルでは、同梱のフォルダ「Webサンプルページ」に格納されているファイル（entry_page.htm）を用いて操作を行います。保存先を確認しておいてください。



2. Webアプリケーション操作の基本を理解しよう

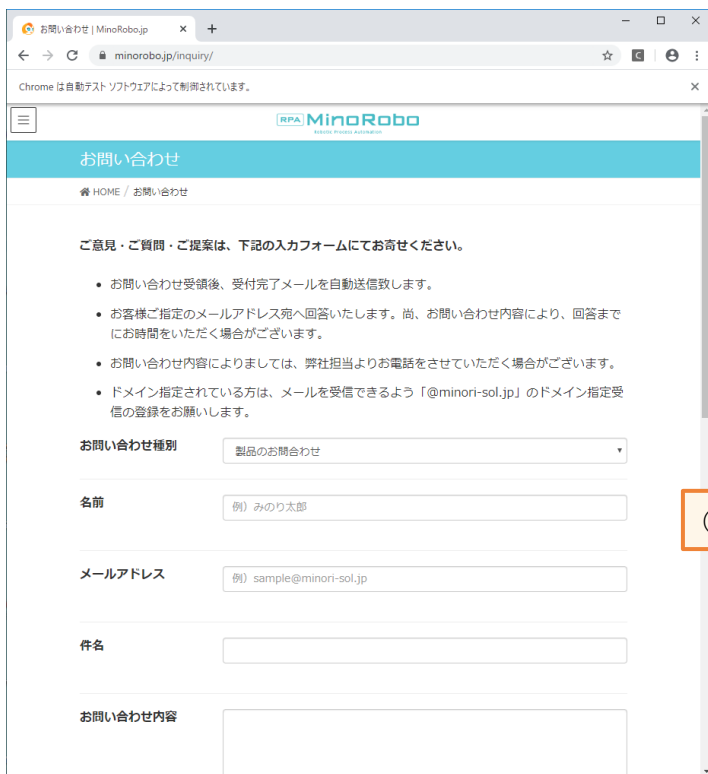


2. Webアプリケーション操作の基本を理解しよう

◎ 操作を始める前に理解しておくこと

(1) Webアプリケーションは「オブジェクト認識」で操作します！

MinoRoboでは通常、「オブジェクト認識」を使用してWebアプリケーション上の操作を自動化していきます。
ただし、「オブジェクト認識」が出来ない場合はキーボード打鍵や座標操作などを活用して操作を自動化します。
本チュートリアルでは「オブジェクト認識」を使用した基本操作を学習していきます。



お問い合わせ

HOME / お問い合わせ

ご意見・ご質問・ご提案は、下記の入力フォームにてお寄せください。

- お問い合わせ受領後、受付完了メールを自動送信致します。
- お客様ご指定のメールアドレス宛へ回答いたします。尚、お問い合わせ内容により、回答までにお時間をいただく場合がございます。
- お問い合わせ内容によりましては、弊社担当よりお電話をさせていただく場合がございます。
- ドメイン指定されている方は、メールを受信できるよう「@minor-sol.jp」のドメイン指定受信の登録をお願いします。

お問い合わせ種別 製品のお問い合わせ

名前 例) みのり太郎

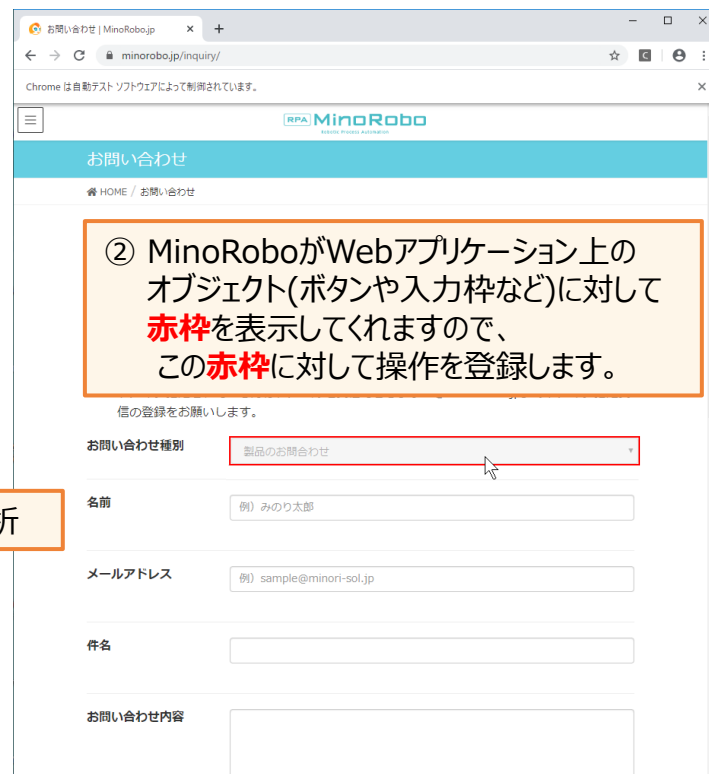
メールアドレス 例) sample@minor-sol.jp

件名

お問い合わせ内容



① MinoRoboでWebアプリケーションを解析



お問い合わせ

HOME / お問い合わせ

ご意見・ご質問・ご提案は、下記の入力フォームにてお寄せください。

② MinoRoboがWebアプリケーション上のオブジェクト(ボタンや入力枠など)に対して赤枠を表示してくれますので、この赤枠に対して操作を登録します。

お問い合わせ種別 製品のお問い合わせ

名前 例) みのり太郎

メールアドレス 例) sample@minor-sol.jp

件名

お問い合わせ内容

2. Webアプリケーション操作の基本を理解しよう

◎ 操作を始める前に理解しておくこと

(2) 赤枠で表示された「オブジェクト」に対して操作を登録します！

■ Webアプリケーションに対して「オブジェクト認識」でアクションを登録する方法

- ① メイン画面の「制御(V)」→「Chrome」を選択
- ② ブラウザ画面の操作対象オブジェクト（ボタンや入力枠など）上にマウスカーソルを移動し、**赤枠**を表示
- ③ **赤枠**上で右クリックしてアクション選択メニューを表示し、その中から登録したいアクションを選択



2. Webアプリケーション操作の基本を理解しよう

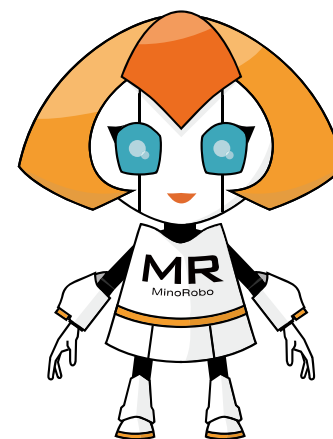
◎ 操作を始める前に理解しておくこと

(3) オブジェクト認識の ON/OFF はメイン画面で切り替え可能！



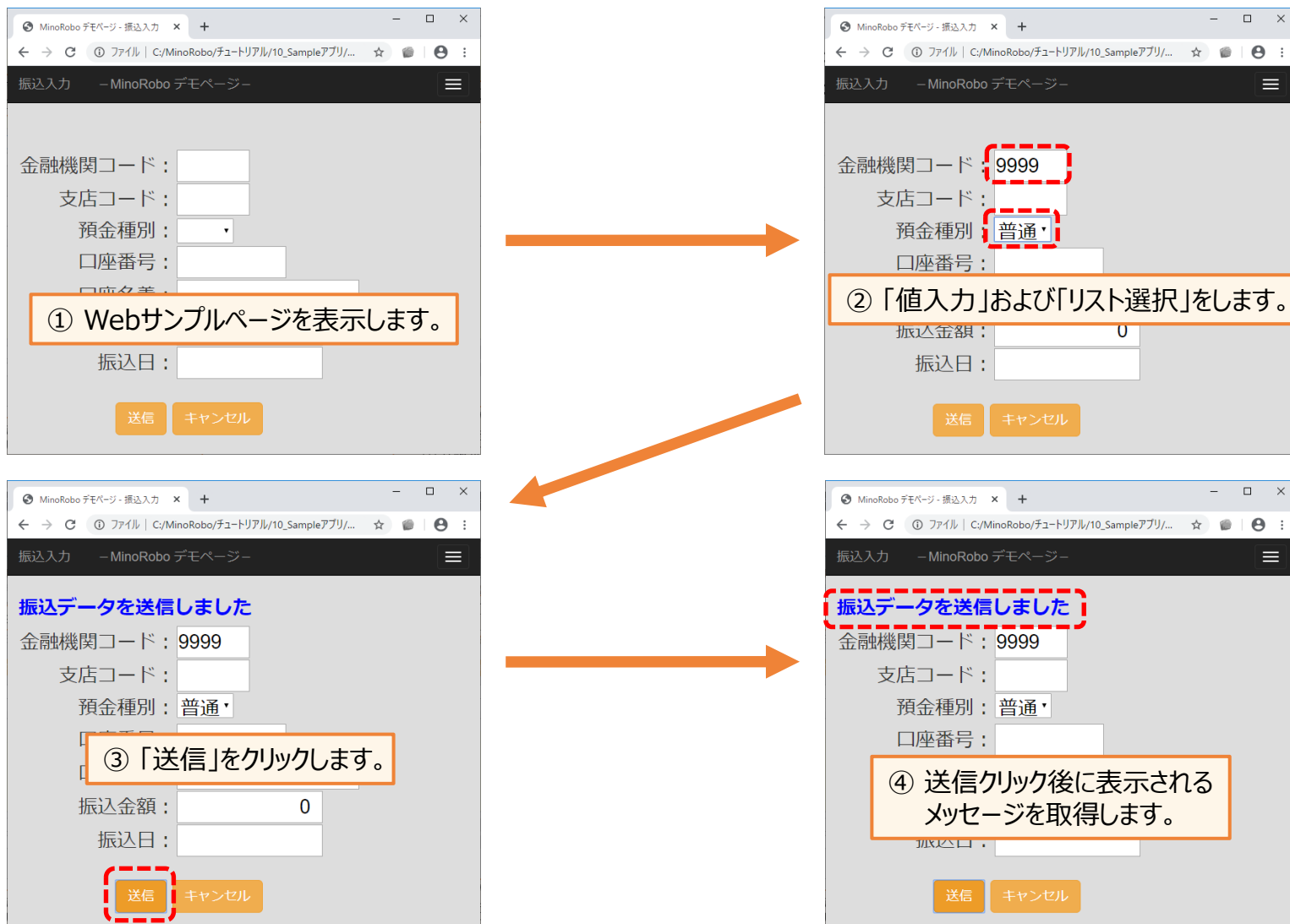
※ 制御をOFFにしたあと、再度オブジェクト認識をONにする場合は、メイン画面の「制御(V)」から操作対象のブラウザを選択します。

3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう



3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

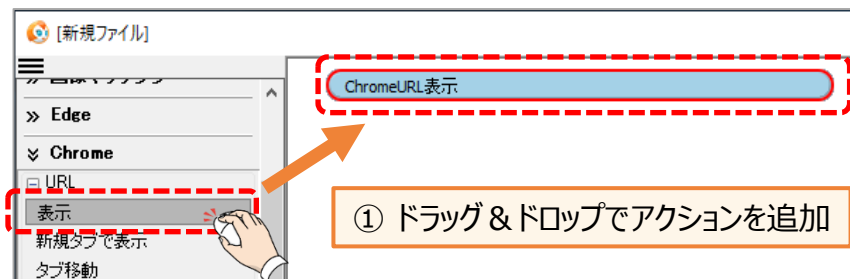
◎以降では、以下の流れを「オブジェクト認識」を使用して自動化していきます。



3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

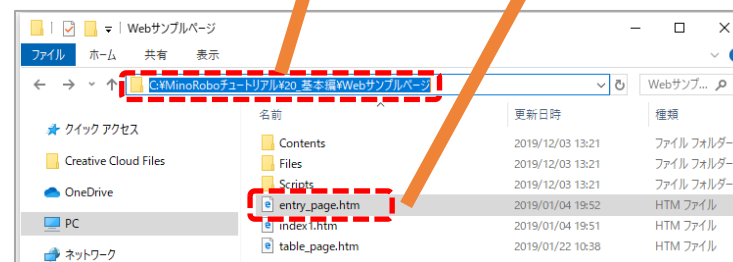
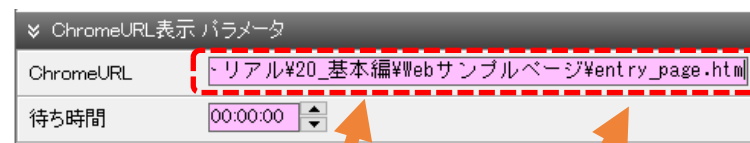
◎ Webページを表示する -1

- ① アクション選択エリアの「Chrome」→「URL」→「表示」を選択し、実行順序エリアにドラッグ＆ドロップします。



- ② パラメータエリアの「ChromeURL」にChromeブラウザに表示するページのURLを入力します。

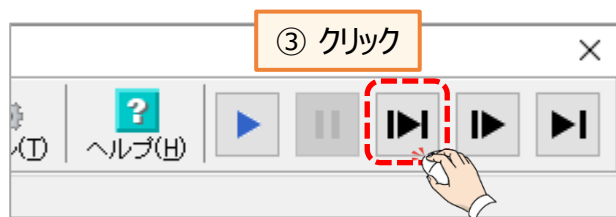
※ここでは同梱のWebサンプルページ（entry_page.htm）のフルパス（フォルダパス+ファイル名）を指定します。



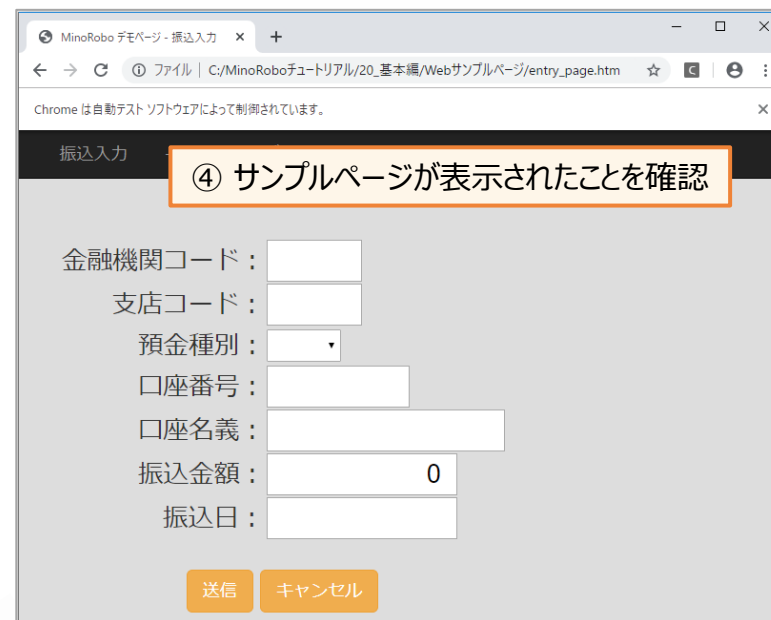
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページを表示する -2

- ③ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



- ④ ブラウザ画面にWebサンプルページが表示されたことを確認します。



便利なショートカットキー

シナリオ画面とメイン画面を切り替える操作は、以下のショートカットキーを活用することで簡単に操作できます。

「Ctrl+Tab」・・・シナリオ画面とメイン画面を切り替える
「Ctrl+M」・・・メイン画面を前面に表示



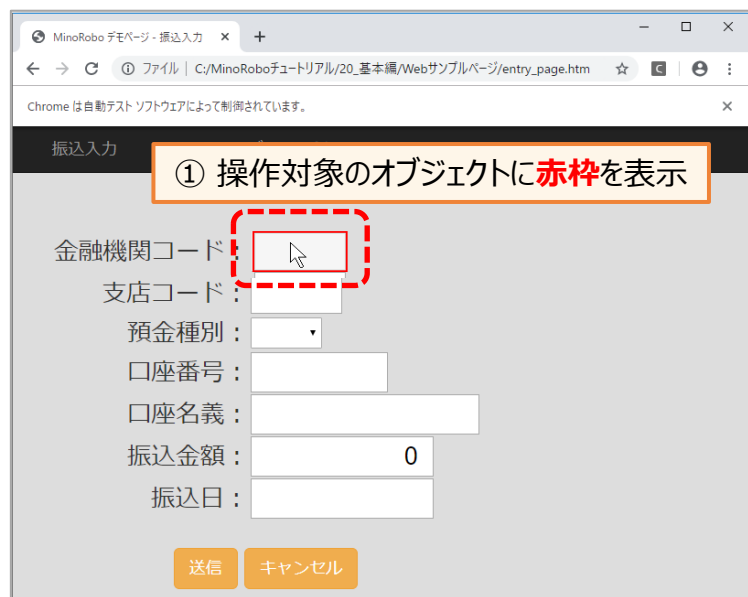
ポイント

ブラウザ未起動時に「ChromeURL表示」アクションを実行した場合は、ブラウザ起動後にページを表示してくれます。

3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページに値を入力する -1

- ① 以下画像のように、Webサンプルページ上にマウスカーソルを移動して**赤枠**を表示します。



- ② 表示された**赤枠**上で右クリックしてアクション選択メニューを表示し、「エディット(Q)」→「値セット(W)」を選択します。



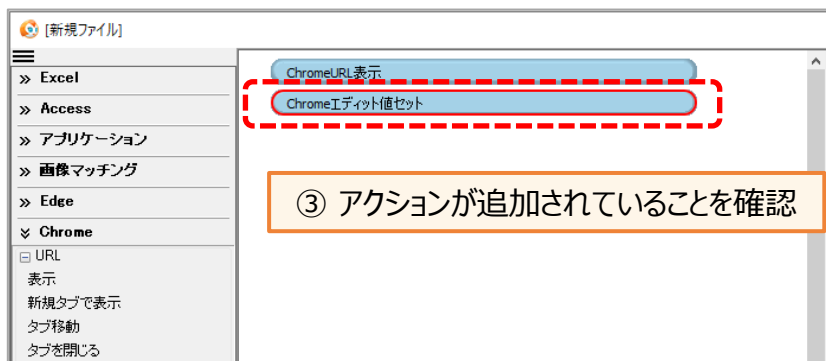
赤枠が表示されない時は・・・

Chromeの制御がOFFになっている可能性があります。
メイン画面の「制御(V)」→「Chrome」を再度選択し
てお試しください。

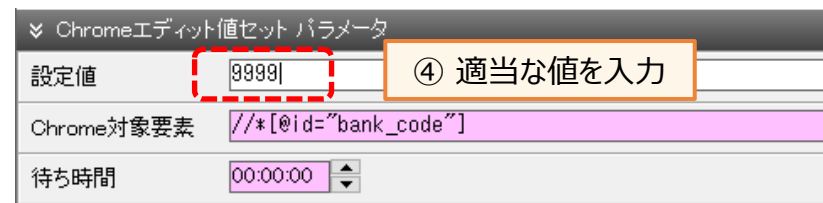
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページに値を入力する -2

- ③ シナリオ画面に「Chromeエディット値セット」が追加されたことを確認します。



- ④ パラメータエリアの「設定値」に適切な値（ここでは9999）を入力します。



ポイント

Excelなど外部から取得した値を設定したい場合は「**ユーザ定義変数**」をパラメータの「**設定値**」に指定します。
外部の情報を「ユーザ定義変数」に格納してそれを転記するイメージです。

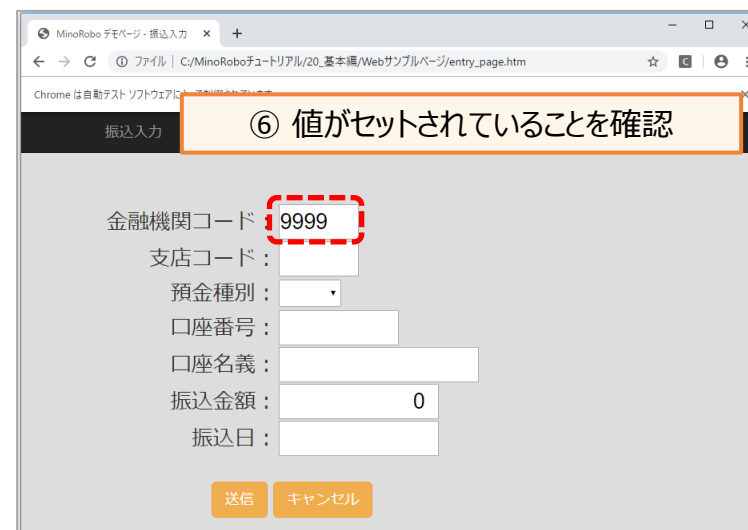
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページに値を入力する -3

- ⑤ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



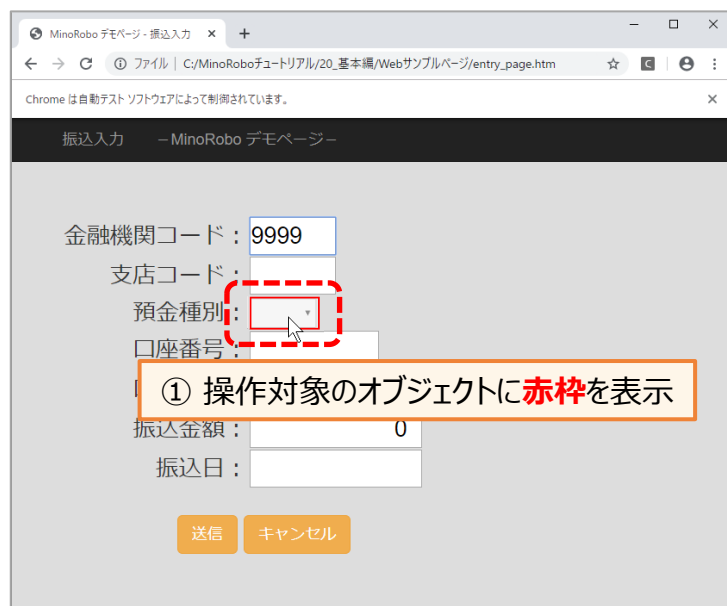
- ⑥ Webサンプルページの対象オブジェクトに値が入力されたことを確認します。



3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリストを選択する -1

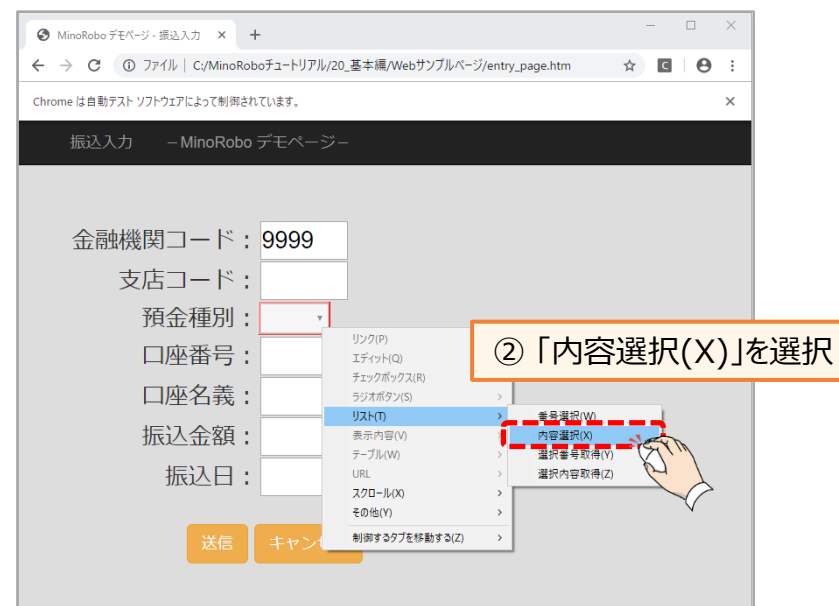
- ① 以下画像のように、Webサンプルページ上にマウスカーソルを移動して**赤枠**を表示します。



赤枠が表示されない時は・・・

Chromeの制御がOFFになっている可能性があります。
メイン画面の「制御(V)」→「Chrome」を再度選択し
てお試しください。

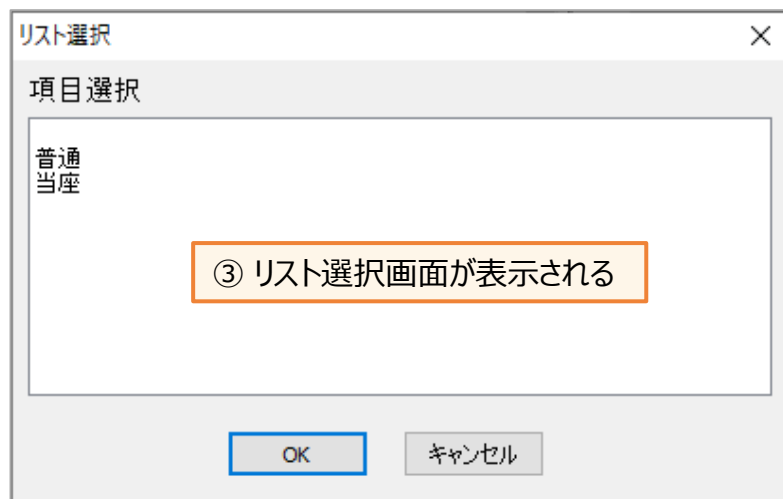
- ② 表示された**赤枠**上で右クリックしてアクション選択メニューを表示し、「リスト(T)」→「内容選択(X)」を選択します。



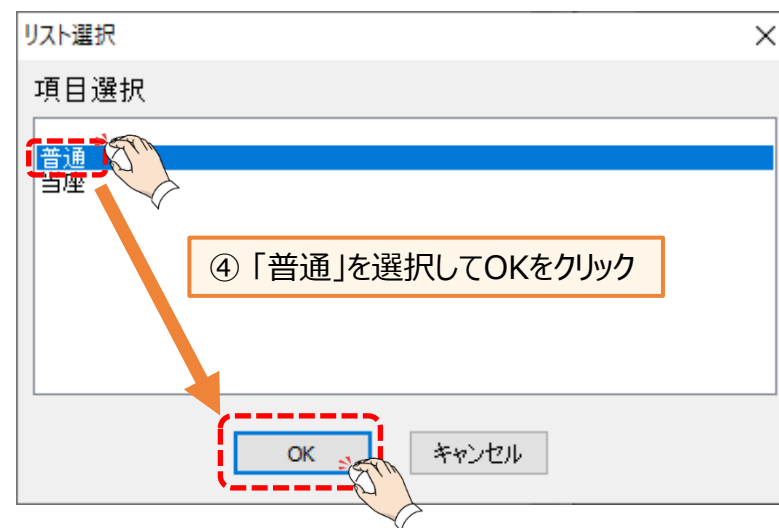
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリストを選択する -2

- ③ プルダウンメニューで選択可能な内容が一覧で表示されます。



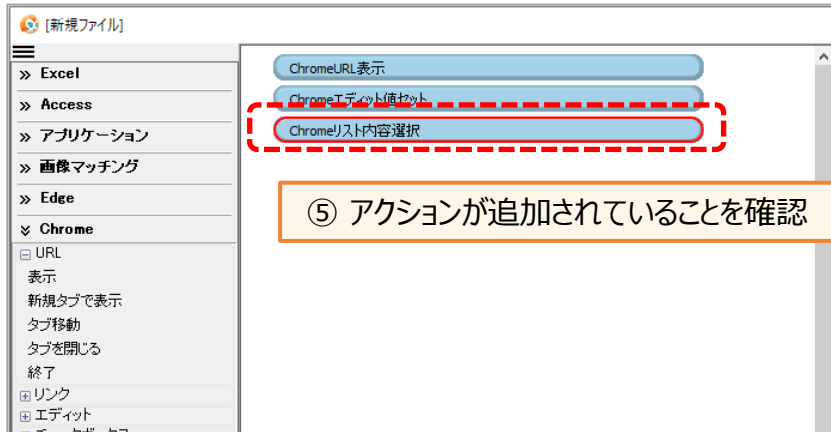
- ④ 一覧から「普通」を選択して、OKをクリックします。



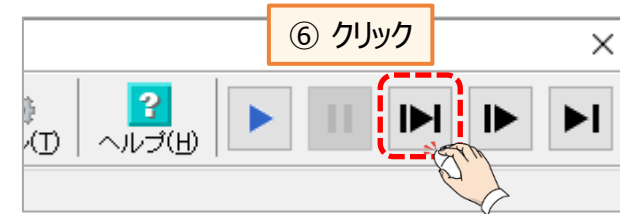
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリストを選択する -3

- ⑤ シナリオ画面に「Chromeリスト内容選択」が追加されたことを確認します。



- ⑥ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリストを選択する -4

⑦ プルダウンメニューは「普通」が選択された状態になっていることを確認します。

振込入力 - MinoRobo デモページ

金融機関コード : 9999

支店コード :

預金種別 : 普通

口座番号 :

口座名義 :

振込金額 : 0

振込日 :

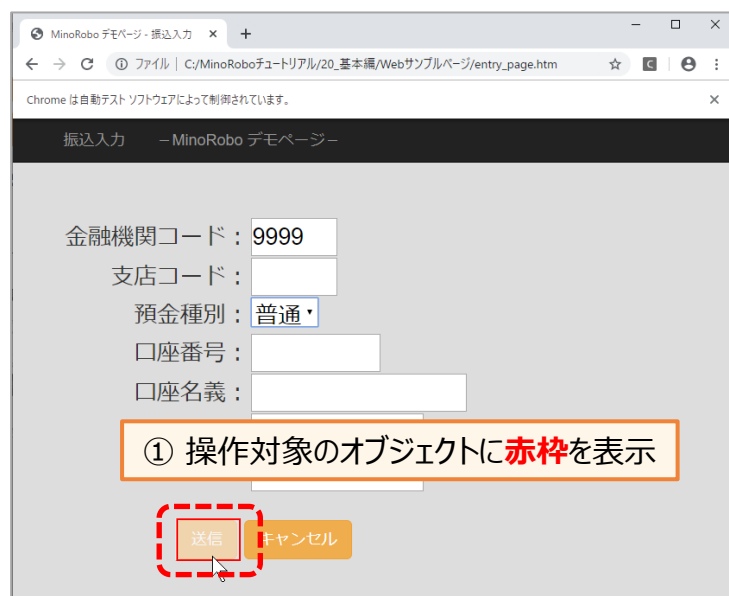
送信 キャンセル

⑦ リストが選択されていることを確認

3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリンクをクリックする -1

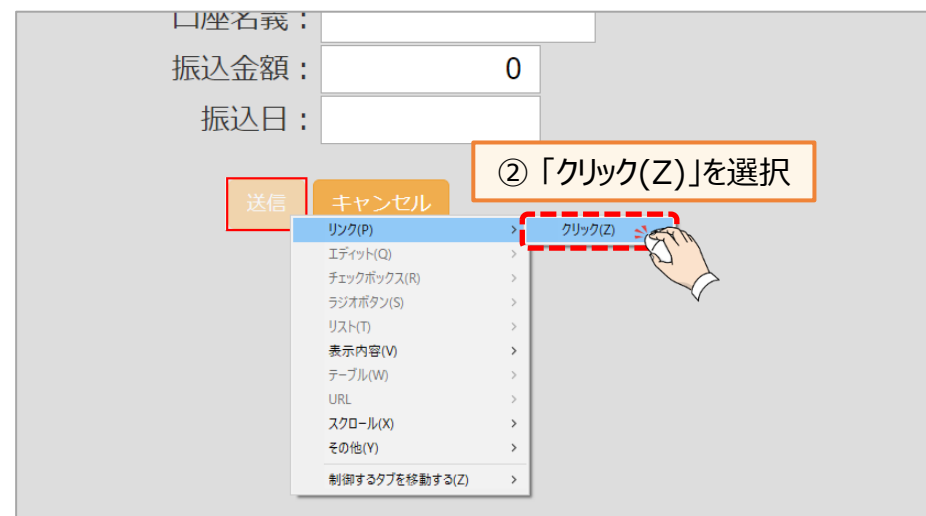
- ① 以下画像のように、Webサンプルページ上にマウスカーソルを移動して**赤枠**を表示します。



赤枠が表示されない時は・・・

Chromeの制御がOFFになっている可能性があります。
メイン画面の「制御(V)」→「Chrome」を再度選択し
てお試しください。

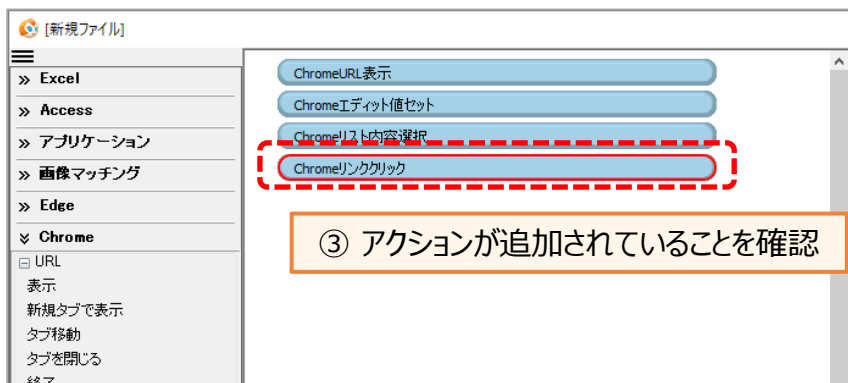
- ② 表示された**赤枠**上で右クリックしてアクション選択メニューを表示し、「リンク(P)」→「クリック(Z)」を選択します。



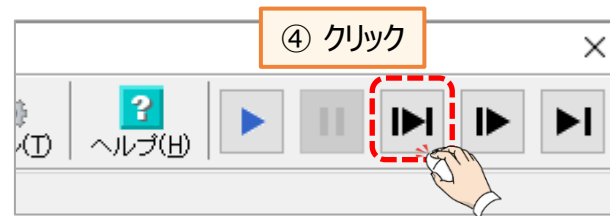
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリンクをクリックする -2

- ③ シナリオ画面に「Chromeリンククリック」が追加されたことを確認します。



- ④ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページのリンクをクリックする -3

⑤ リンククリックを実行した結果が画面に表示されることを確認します。

MinoRobo デモページ - 振込入力

Chrome は自動テスト ソフトウェアによって制御されています。

振込入力 - MinoRobo デモページ

振込データを送信しました

金融機関コード : 9999

支店コード :

預金種別 : 普通 ▾

口座番号 :

口座名義 :

振込金額 :

振込日 :

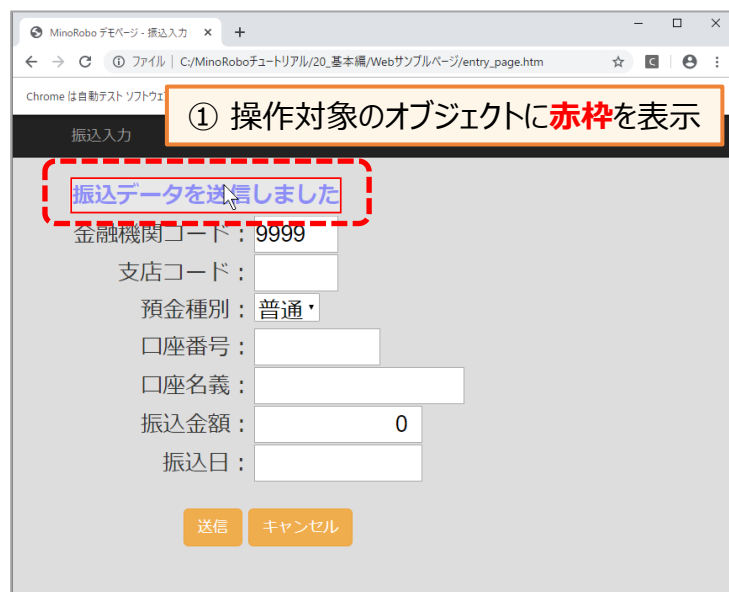
送信 キャンセル

⑤ 結果のメッセージが画面上に表示されることを確認
※当メッセージはサンプル用に表示しているメッセージです。

3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページの値を取得する -1

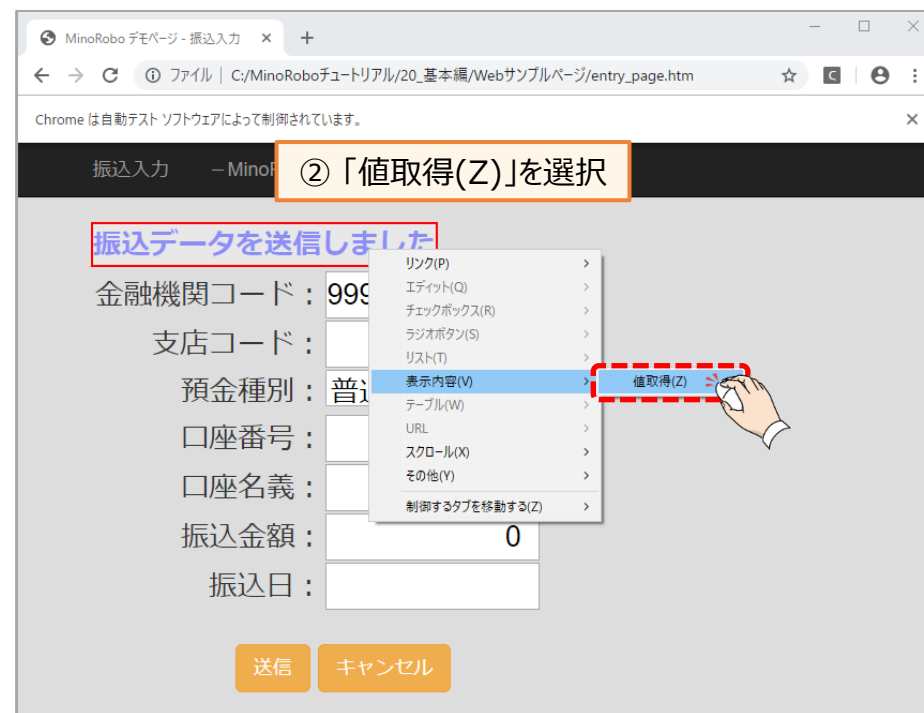
- ① 以下画像のように、Webサンプルページ上にマウスカーソルを移動して**赤枠**を表示します。



赤枠が表示されない時は・・・

Chromeの制御がOFFになっている可能性があります。
メイン画面の「制御(V)」→「Chrome」を再度選択し
てお試しください。

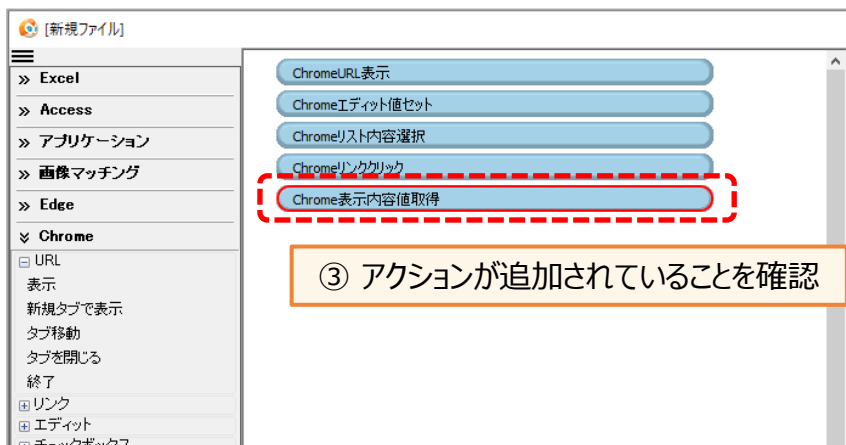
- ② 表示された**赤枠**上で右クリックしてアクション選択メニューを表示し、「表示内容(V)」→「値取得(Z)」を選択します。



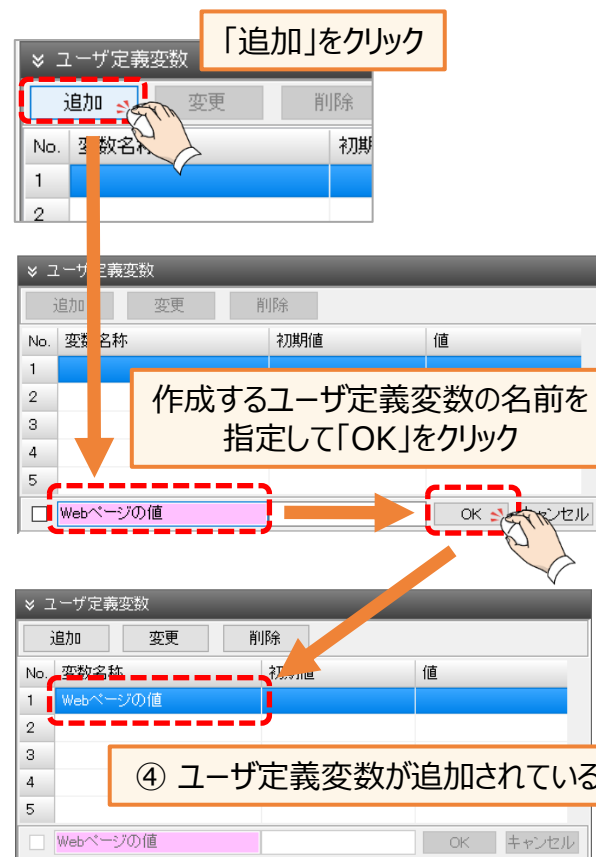
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページの値を取得する -2

- ③ シナリオ画面に「Chrome表示内容値取得」が追加されたことを確認します。



- ④ パラメータエリアの「取得先変数名」にはユーザ定義変数を指定する必要があるため、ユーザ定義変数を追加します。



3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページの値を取得する -3

- ⑤ 追加したユーザ定義変数をパラメータエリアの「取得先変数名」にドラッグ＆ドロップします。

ユーザ定義変数

追加 変更 削除

No.	変数名	初期値	値
1	Webページの値		
2			
3			
4			
5			

☐ Webページの値 OK キャンセル

Chrome表示内容値取得 パラメータ

取得先変数名

Chrome対象要素

待ち時間



ユーザ定義変数

追加 変更 削除

No.	変数名	初期値	値
1	Webページの値		
2			
3			
4			
5			

☐ Webページの値 OK キャンセル

Chrome表示内容値取得 パラメータ

取得先変数名

Chrome対象要素

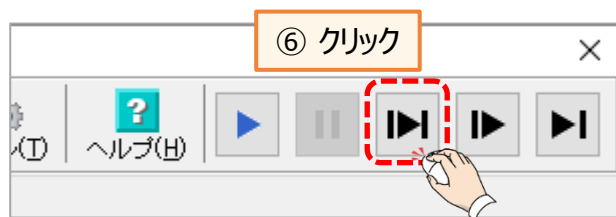
待ち時間

⑤ ドラッグ＆ドロップ

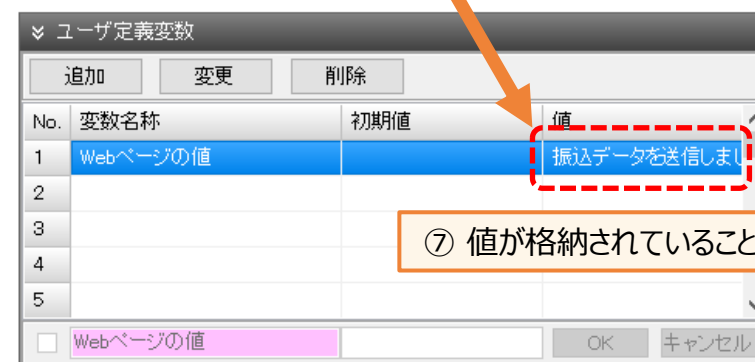
3. Webアプリケーションの操作を自動化してみよう

◎ Webページの値を取得する -4

- ⑥ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



- ⑦ Webサンプルページに表示されている値がユーザ定義変数に格納されたことを確認します。



- ⑦ 値が格納されていることを確認

以上で「～チュートリアル（基本編）～ Webアプリケーションを操作してみよう」
は終了です。

お疲れ様でした。

